

検見川浜の生き物観察 勉強会

相吉達夫（松戸市）

日 時：2025年4月29日（火）10:00～12:00 天候：晴れ

場 所：検見川の浜（千葉市）

参加者：指導員18名、講師：田島正子

検見川浜ビーチフェスタ、千葉市ふれあい自然観察会、稻毛海浜公園自然観察会の合同の下見を兼ねた勉強会が行われました。当日は少し風がありましたが晴れて暖かく観察会日和でした。その日のテーマ、スケジュールの説明、注意事項、参加指導員への質問などが田島さんからあった。その中で印象に残っているのが新月と満月の時、干満の差が大きくなるという事でした。まさに今日が新月です。

3名1組になりいよいよ干潟での採取の始まり。その道中、柵で囲まれたコアジサシの繁殖地の中にシロチドリを発見、一同足を止め観察、その周りの砂地にはコウボウシバが一面に生えていた。干潟では皆さんが採取を楽しんでいました。浅瀬ではボラの稚魚やエビの仲間が元気よく泳いでいましたが海水は少し生ぬるく感じました。1回目の採取を終え採った生き物を種類別に分類し、米の研ぎ汁には二枚貝を浄化実験に使用するために入れた。そして、2回目の採取の後、田島さんから生き物たちの説明や指導員の方々との質疑応答がありました。クラゲの一生のうちの一つがポプリだと教わりそれが長生きする事も驚きました。因みにクラゲになると寿命は1年だそうです。また、イボニシ貝から抽出した染料を使った染物の紫色が綺麗でした。そして浄化実験の結果、見事に二枚貝を入れた研ぎ汁の方が浄化されていました。終了後、採取した生き物に感謝の気持ちを込めて海に返し、この際に二枚貝をあえて砂の上に置きどの様に潜っていくかを観察、結果は個体差がありましたが割れ目を下に向けて5、6回目で完全に潜りました。今回の勉強会ではコアジサシは観る事が出来ませんでしたが、干潟には過酷な環境（ゴミはほとんどなし）にも負けず多くの生き物がいる事を実感しました。

採取した生き物

被子植物:アマモ、緑藻類:アオサの仲間、刺胞動物:アカクラゲ(死骸)・ミズクラゲ(死骸)・タテジマイソギンチャク、環形動物:ゴカイの仲間数種・カンザシゴカイの仲間・スゴカイイソメ棲管、二枚貝:バカガイ・アサリ・カガミガイ・ハマグリ・シオフキ・ミドリイガイ・ウスカラシオツガイ、巻貝:イボニシガイ・アラムシロガイ・ツメタガイ・シマメノウフネガイ、甲殻類:タイワンガザミ・イソガニ・タカノケフサイソガニ・イッカククモガニ・ヒライソガニ・コブヨコバサミ・ユビナガホンヤドカリ・テナガツノヤドカリ・ユビナガスジエビ・エビジャコの仲間・ニホンスナモグリ・イワフジツボ・フナムシ、ホヤ:マンハッタンホヤ、コケムシ:フサコケムシの仲間・アミコケムシの仲間、魚類:イシガレイ・ハゼの仲間・ボラ



米の研ぎ汁に貝を入れての浄化実験



浜の生き物採取



種類別容器に分類し生き物を観察・説明